

【 杵 築 市 】

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 特徴的な結果

小学校：国語A

■課題

□長所

- ①■「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、「ローマ字を読んだり、書いたりする」「漢字を読んだり書いたりする」ことに課題がある。
- ②■「読むこと」の領域で、「図と表とを関連付けて読む」「登場人物の人物像を捉える」ことに課題がある。
- ③□「書くこと」の領域で、「書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する」が県・全国の平均を5ポイント以上上回っている。

小学校：国語B

■課題

□長所

- ①■「話すこと・聞くこと」の領域で、「話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る」ことに課題がある。
- ②■「書くこと」の領域で、「グラフを基に、分かったことを的確に書く」ことに課題がある。
- ③□「読むこと」の領域で、県・全国の平均よりわずかではあるが上回っている。
- ④□「国語への感心・意欲・態度」は全国に比べ大分県が高く、それよりさらに杵築市が高くなっている。（全国と比べ2.8ポイント高く、県と比べ1.4ポイント高い。）
- ⑤□記述式の正答率が、全国・県より高くなっている。

2 具体的な改善方策

小学校：国語A

- ①◆ローマ字の指導については、清音だけでなく、濁音、促音、拗音などについても音声と関係付けながら規則性を押さえる必要がある。他教科等で、パソコンを使った学習と関連付けるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やすことが大切である。また、実際に自分で書く活動も取り入れていくことで、実感を伴った定着を図りたい。漢字の習得については、漢字を繰り返し練習させるだけでなく、実際の文章の中で積極的に使っていき姿勢を身につけさせたい。的確に漢字を使っていくために、辞書を利用して調べる習慣をつけ、語彙を広げていくことも大切である。
- ②◆説明文の指導においては、複数の資料を関連付けて読む際、目的に応じて必要な情報を取り出すために丸で囲む、下線を引く、矢印等をつなげる等の具体的な方法を指導していくことも大切である。物語文の指導においては、登場人物の心情や人物像を考えるときに、その根拠となる叙述に目を向けて捉える学習をしていくことが重要である。
- ③◇日頃の授業の中でも、問題解決の過程において互いに助言し合う等対話的な学びが行われている成果であると考えられる。

- ①◆インタビューの学習を行う場合、事前にインタビューメモを作成するなど、調査の目的に応じて質問したいことを整理しておくことや、相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することなどを指導する必要がある。
- ②◆一つのグラフから全体的な特徴や変化の特徴を捉える学習、複数の図表やグラフを比較したり関連付けたりする学習などを通して、図表やグラフの読む力を他教科・領域における指導を含め行っていく必要がある。また、読み取った情報を分かりやすく伝えるための言葉（必要な数値、概略を示す言葉、比較する言葉等）を使い分けることができるように指導することが大切である。
- ③◇「読む」領域において、言語活動を設定した授業改善が進んだ結果、活用的な力がついてきていると思われる。
- ④◇与えられた学習ではなく、子どもたちがやってみたくくなるような言語活動が設定された授業が重ねられてきている結果であると思われる。
- ⑤◇日頃の授業の中で、目的や必要に応じて書く機会が増え、書くことに対する抵抗が減ってきたと考えられる。

【 杵築市 】

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- ①■「図形」の領域で「図形を構成すること」に課題がある。
- ②■「数量関係」の領域で「割合の意味を理解すること」に課題がある。
- ③■「数量関係」の領域で「基準量、比較量、割合の関係を理解すること」に依然として課題がある。
- ④□「数と計算」の領域で「除法の性質や計算の仕方」は、全国の平均を上回っている。

小学校：算数B

- ①■「数と計算」の領域で「示された式の中の数値の意味を理解すること」に課題がある。
- ②■「図形」の領域と「量と測定」の領域を関連づけた問題で「図形を構成すること」と「角の大きさを測定すること」に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：算数A

- ①◆直角二等辺三角形の構成要素（等しい長さの2辺で構成される1角が直角である。）に着目できていないと考えられる。発達段階に応じて色板並べや折り紙を使った形作りなど、具体物を用いた活動を重視し、図形の特徴を実感的に理解できる場面を設定することが必要である。また、系統性を意識して、前学年に扱った具体物を用いた活動を振り返り、当該学年の内容と関連づけることが大切である。
- ②◆割合を全体の大きさに対する部分の大きさとしてとらえきれていない。そのためテープ図の部分の長さで割合の大きさをとらえていると考えられる。全体のうちのどれくらいかという割合のおよその大きさを見積もる場面を設定することが必要である。その際、全体（100%）や半分（50%）、半分の半分（25%）を目安にして、いろいろな割合を解釈することが大切である。
- ③◆割合には1を超えるものがあると理解できていない。そのため、テープ図において長い方が基準量であると捉えていると考えられる。割合が使われている生活場面を取り上げ、何が基準量にあたるのかを意識させる必要がある。また、定員、増量、値引きなどの生活の中で使われている言葉が割合と関係していることを押さえることも大切である。

- ①◆指導の際、立式するだけでなく、友達が考えた式や示された式について、その式の数値はどこから導き出されるものであるか、その数値に対して足したり、引いたり、かけたり、わったりすることはどのような意味があるのかを考えたり、説明したりする場面を設定することが必要である。
- ②◆算数Aの改善方策と同様に、図形を組み合わせることによって、どんな図形ができるのかを実感的に理解できるような場面の設定が必要である。さらに、できた図形の特徴から角の大きさを求める場合、どんな式で表されるのかを考える場面を設定し、互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けることなどが必要である。

【 杵築市 】

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語A

- 「話す・聞く」の領域～スピーチで絵本のページを提示した意図を尋ねる問題（－3 p）・・・実物を提示しながらの説明体験が不足しているため、スピーチと実物提示が噛み合っていない。
- 「書く」～文中の言葉を使って見出しをつける問題（－2. 1 p）・・・説明の下書きの趣旨を読み取れないため、距離の数字に惑わされて、2つの種目について説明しているという本質を見抜けていない傾向にある。何のことを述べているのかという「本質」を瞬時に見抜く力が必要。要約する力をつける。
- 「読む」～種子の外殻の「不思議な機能」を選択する問題（－7. 6 p）・・・とくに迷う要素のないものである。しかし、文中に多出している言葉に引きずられた解答を選んでいる。このレベルの問題で間違うということは、「読む力」が相当不足している生徒が杵築市に30%近くいると考えられる。
- 「言語」～語句の問題（－4. 8 p※全国差－9. 7 p）・・・これは、使用語彙・理解語彙の不足によるもので、読書経験の多少が大きく影響していると考えられる。中学3年生としてはこれから読書をとというのは時間的にも難しいが、今からでも新聞等に親しみ、読書の楽しみを知る機会を作りたいところである。
- 「言語」～古文の問題（－4 p）・・・歴史的仮名遣いは徹底的に訓練するところであるが、正答率が約76%であった。これは、国語の苦手な生徒でも理解しやすいところなので、反復練習をし、全員に定着させたい知識である。
- 「言語」～文章を書き直した意図の選択問題（－7. 8 p）・・・修飾語・被修飾語は近い方がわかりやすいことが定着できていない。文法事項の定着が概ね良くないため間違い方も割れている。どの選択肢の文法用語もよくわかっていないと思われる。
- 「書く」～問われた事に対して的確な答えを、文のつながりを考えて書く問題（＋5. 3 p）・・・問題文に合わせてつながりを考えて必要なことを書くことができている。
- 「言語」～漢字の読み（＋1. 5）・・・「封筒」「敬う」「報われる」など日常生活で目にする漢字は読めている。
- 「話す・聞く」～話し合いの流れをつかむ問題・・・発言を的確に捉え、今後の話し合いの方向も見えている。

中学校：国語B

- 「読む」～ポスターの情報から必要なものを選び出す問題（－5. 3 p）・・・イベントに参加できるのは日曜日で、選択肢の中に日曜日は1つしかない。にもかかわらず30%近くが間違えているのは、ポスターの情報を読み取れていないというよりも、問題文の意図が理解できていないと思われる。
- 「読む」～雑誌記事の形態での問題（－3 p）・・・まず、こういった写真や図が構造的にレイアウトされた雑誌風の問題では、どこからどんな順番に文章を読んでいけばいいのかわからない生徒がいたかもしれない。多様な形態の文章に触れる経験が必要であると考えます。
- 「書く」～図鑑の説明からわかったことを書く問題（＋4. 1）・・・無回答が少なく、書くことに慣れてきたと思われる。

2 具体的な改善方策

中学校：国語A

- 表現体験を積ませる・・・スピーチやプレゼンテーション、ポスターセッション等表現活動を数多く積ませる。特に実物やフリップ、モニター等音声のみでなくそれを補助するものを使いながらの説明体験をさせたい。
- 読む力をつける・・・特に説明文に読み慣れる必要がある。長い文章を細かく読み解くのではなく、短い文章を短時間で読み、要旨をつかんだり、見出しをつけたりといった活動が有効であると考えます。特に、これから社会に出て活用する力を考えると、時間制限のある中でいかに素早く読み取るかという力も必要になってくる。タイマー等を使った授業展開も考えていきたい。
- 基礎基本の知識・・・歴史的仮名遣いや古語の理解については、短期間での反復練習である程度の成果は期待できる。小テスト・朝学習・夕学習等の帯時間を使って定着を図りたい。
- 読書体験を積ませる・・・例えば本の紹介・ブックトーク・本のショーウィンドウ・ポップ等の楽しみながら興味を持たせられる活動を考えていきたい。
- 語彙を増やす・・・国語辞典の活用については、家庭学習でさせたいところだができていない。できれば授業の中で辞書を引く機会をつくりたいが、週あたり4（3年は3）時間では、なかなかその時間がとれない現状である。辞書が身近にある環境作りと、時間の確保が課題である。文法事項の定着は、授業だけでは対応できないため、放課後等の補充学習が必要であろう。

中学校：国語B

- 多様な形態の文章に触れる・・・これからは教科書の文章だけにとどまらず、雑誌・ポスター・新聞・パンフレット・ウェブサイトのページ・SNS等多様な文章を読んだり書いたりする活動を取り入れていく必要がある。また、それぞれの受け手を意識した言葉選びや、TPOを考えた文章形態の選び方も必要になってくるとと思われる。

【 杵 築 市 】

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学A

○市正答率は57.3で県に対して-3.6P、全国に対して-4.9P

○観点別

- ・「数学的な技能」の市正答率は62.5Pで県に対して-3.4P、全国に対して-4.4P。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」の市正答率は51.5Pで県に対して-3.9P、全国に対して-5.3P。

○領域別

- ・「数と式」の市正答率62.2Pで県に対して-3.1P、全国に対して-3.7P。
- ・「図形」の市正答率62.1Pで県に対して-3.8P、全国に対して-5.0P。
- ・「関数」の市正答率47.0Pで県に対して-3.0P、全国に対して-5.0P。
- ・「資料の活用」の市正答率49.2Pで県に対して-5.6P、全国に対して-7.3P。

以上より、領域では「資料の活用」が最も下回っている。

○問題別

- ・設問36問中、県・全国と比較して正答率がどちらも上回っているのは3問、どちらも下回っているのは30問であった。
- ・全国の正答率と比較して、10P以上下回った問題は以下の8問である。
「分数と小数の乗法」「自然数の意味」「文字式の加法、減法」「平行線や角の性質」「三角形の合同条件」「比例のyの増加量」「一次関数の変化の割合」「硬貨の表裏の確率」

中学校：数学B

○市正答率は41.9Pで県に対して-0.2P、全国に対して-2.2P。

○観点別

- ・「数学的な見方・考え方」の市正答率37.1Pで県に対して+0.3P、全国に対して-1.8P。
- ・「数学的な技能」の市正答率53.9Pで県に対して-1.7P、全国に対して-3.6P。

○領域別

- ・「数と式」の市正答率48.4Pで県に対して-0.9P、全国に対して-3.1P。
- ・「図形」の市正答率29.4Pで県に対して+2.1P、全国に対して-3.9P。
- ・「関数」の市正答率42.4Pで県に対して+1.2P、全国に対して+1.0P。
- ・「資料の活用」の市正答率33.3Pで県に対して-4.4P、全国に対して-6.0P。

以上より、領域では「関数」が県、全国とも市正答率の方が上回っている。

○問題別

- ・設問15問中、県・全国と比較して正答率がどちらも上回っているのは2問、どちらも下回っているのは6問であった。
- ・上回っている問題は「一次関数のグラフの傾きの意味」「2つの車の総費用が等しくなるときの使用年数の説明」。
- ・最も下回っていた問題は「相対度数を求める式を書く」。
- ・市の無解答率が40Pを超えていた問題は「相対度数を求める式を書く」「 $5a+10$ から a を求める方法を説明する」であり、説明をするという問題についてどのように答えて良いか分からない様子がかがえる。

2 具体的な改善方策

中学校：数学A

特に10P以上下回った問題に注目すると、以下の点が挙げられる。

- ・約分ができていない。
- ・0や負の整数を自然数に含んでしまっている。
- ・分配法則のミス。
- ・錯角が理解できていない。
- ・合同条件が理解できていない。
- ・ y の増加量ではなく、 y の値を求めてしまっている。増加量の意味がつかめていない。
- ・変化の割合に対して無回答が多く、「変化の割合」の意味が分かっていない。
- ・確率について、表が続いたので次も表になると考えた。または「コイントスの結果がわからない」と「確率の大小が決まらない」ということを混同していると思われる。問題文の意図を読み取れていない。

以上のことから、具体的に次の方策を取り入れたい。

- ・平行線の角度の問題を復習する。
- ・数学的な用語(自然数や変化の割合など)について意味をおさえなおす。
- ・具体的な図形についてどんな条件がそろえば合同になるかをおさえることで、様々な合同条件をふりかえる。

また、基礎・基本の定着のために、年間を通して小テストを継続的に実施したり、習熟の程度に応じた

学習プリントを準備したりすると効果的である。また、前学年の復習も含めて補充的な指導を定期的に取り入れるとよい。

中学校：数学B

無解答率が多い問題については、「問題文から必要な情報を見つけられない」「どのように答えて良いかわからない」といったことが考えられる。また正解率が低い問題については、問題の意味が読み取れなかったり、その問題を解決するに当たってどのような知識や計算を利用したらよいかが見いだせなかったりしていると思われる。

そこで、具体的に次の方策を取り入れたい。

- ・単元に1回は、問題解決学習を扱い、説明したり発表したりするなどの言語活動を取り入れる。
- ・過去のB問題を解かせる。様々なパターンの問題やその解き方に触れることで、「こういった問題にはこのように答える」といったことを身につけさせる。
- ・校内や市の数学部会の中で、生徒の現状やその都度の課題を共有し、より良い指導方法を検討する。

【 杵築市 】

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

学習に対する関心・意欲・態度

【国語】

質 問	平成 27 年度	平成 28 年度	増減
「国語は大切である」	91%	93.8%	○
「国語は役に立つ」	91%	91.3%	
「国語が好きだ」	63.8%	55.3%	△
「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」	61.2%	64.9%	
「話の組み立てを工夫しているか」	53.9%	57%	○
「自分の考えの理由がわかるように書いているか」	68.6%	70%	
「段落や話のまとめりとともに内容を理解しながら読んでいるか」	75%	80.7%	○

【算数】

質 問	平成 27 年度	平成 28 年度	増減
「算数は大切である」	92.7%	93.8%	
「算数は役に立つ」	89.2%	89.4%	
「算数が好きだ」	67.5%	65.3%	△
「新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか」	78.3%	73.6%	△
「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」	79.3%	82.4%	○
「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」	65%	66.6%	
「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」	74.5%	81.1%	○

学習状況

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意か」という質問に対して、肯定的な回答の割合は 50%である。県・全国と比べて差はない。
- 「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が 91.2%である。
- 「授業のはじめにめあて・ねらいが示されていたか」という質問について、肯定的な回答の割合が 89.1%あり、県・国よりもとても高い。
- 400字詰め原稿用紙で 2～3 枚の感想文や説明文を書くことに抵抗を感じている割合が 44.1%

と抵抗感がある。

学習時間等

- 「月曜日から金曜日まで1時間以上勉強している」と回答した割合が59.2%、「土日に2時間以上勉強している」と回答した割合が20.6%であり、県・全国と比べて低い。
- 授業の予習をしていると回答した割合が32.4%、復習をしていると回答した割合が49.5%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が60.5%であり、県・全国と比べて差はない。
- 「読書は好きか」という質問について、肯定的な回答の割合が74.5%あるのに対して、「図書館にほとんどまたは全く行かない」と回答した割合が36.5%あり、全国と比べて高い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が39%であり、県・全国と比べて高い。「全くしない」と回答した割合は、20.6%である。

学校生活等

- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が75.4%であり、県・全国に比べてとても低い。

基本的な生活習慣

- 県・全国と比べて、特に気になる回答は見受けられない。

家庭でのコミュニケーション

- 「家の人と学校の出来事について話しをしますか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が75%であり、県・全国と比べて低い。
- 「家の手伝いをしているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が78.5%であり、県・全国と比べて低い。

地域との関わり・社会に対する興味・関心

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか」（75.5%）であり、県・全国と比べてとても高い。
- 「新聞を読んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が19.8%であり、全国と比べて少ない。ただし、テレビやインターネットのニュースはよく見ている。

自尊意識

- 「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が87.5%であり、県・全国と差はない。

規範意識

- 県・全国と比べて、特に気になる回答は見受けられない。

総合的な学習の時間

- 「総合的な学習の時間は、普段の生活や社会に出たとき役に立つ」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、82%であり、昨年度より下がった。
- 「総合的な学習の時間において自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が51.3%であり、

県・全国と比べてとても低い。

生徒質問紙

学習に対する関心・意欲・態度

- 「国語は大切である」と感じている割合は91.1%である。「国語は役に立つ」と感じている割合が89.8%であり、県・全国と比べてとても高い。
- 国語について、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」(55.7%)、「話の組み立てを工夫しているか」(62.7%)、「自分の考えの理由がわかるように書いているか」(74.1%)、「段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいるか」(74.5%)という質問に対して、県や全国を大幅に上回っている。
- 「数学は大切である」と感じている割合が84.7%である。「数学は役に立つ」と感じている割合が74.1%であり、県・全国と比べて大幅に高い。「数学が好きだ」と感じている割合が、51.3%である。
- 「数学ができるようになりたいか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が91.8%である。
- 「数学で解き方や考え方がわかるようにノートに書いているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が81.6%であり、県・全国と差がない。
- 数学について、「諦めずにいろいろな方法を考えるか」(68.2%)、「普段の生活の中で活用できないかを考えるか」(38.4%)、「もっと簡単に解く方法がないかを考えるか」(65.9%)、「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか」(67.1%)という質問に対して、肯定的な回答の割合が、県・全国と比べて高い。昨年度より、どれも肯定的回答が高くなっている。

学習状況

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意か」という質問に対して、肯定的な回答の割合は51%であり、県・全国と比べて差はない
- 「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が91.4%でありが、県、全国と比べて低い。
- 前学年で「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」という質問について、肯定的な回答の割合が85.5%でありに対して、自分の考えを他の人に説明したり、書いたり、深めたり、広げたりすることがよくできている、おおよそできていると回答した割合は45.1%である。
- 「授業のはじめにめあて・ねらいが示されていたか」という質問について、肯定的な回答の割合が95.7%あるのに対して、「授業の終わりに学習を振り返る活動をよく行ったか」という質問について、肯定的な回答の割合が82.3%である。
- 400字詰め原稿用紙で2～3枚の感想文や説明文を書くことに抵抗を感じている割合が47.9%である。

学習時間等

- 「月曜日から金曜日まで2時間以上勉強している」と回答した割合が33.8%であり、県と比べて低い。「土日に3時間以上勉強している」と回答した割合が20.8%であり、県と比べて低い。
- 授業の予習をしていると回答した割合が19.2%、復習をしていると回答した割合が46.7%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が52.9%であり、県・全国と比べて高い。

- 「図書館にほとんどまたは全く行かない」と回答した割合が43.9%である。しかし、「週1回以上行く」と回答した割合は21.5%であり、県・全国と比べると約3倍である。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合は、28.2%である。「全くしない」と回答した割合は、43.1%である。

学校生活等

- 「学級では、話し合っって学級のきまりなどを決めている」と回答した割合が76.5%であり、県・全国に比べて低い。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が79.6%であり、県・全国に比べて低い。

基本的な生活習慣

- 月曜日から金曜日で、4時間以上テレビ・ビデオ、DVDを見たり、聞いたりしている割合が11.4%であり、県・全国と同じである。
- 月曜日から金曜日で、2時間以上携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合が30.2%であり、県と比べて多い。

家庭でのコミュニケーション

- 「家の手伝いをしているか」では、74.9が肯定的な回答をしている。県・全国と比べて、とても高い。

地域との関わり・社会に対する興味・関心

- 「地域の行事に参加しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が県・全国と比べて多いが、60%に満たない。(52.6%)
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」(68.6%)という質問に対して、肯定的な回答の割合が、県・全国と比べて少ない。
- 「新聞を読んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が県・全国と比べて多いが、20%に満たない。(17.7%)。ただし、テレビやインターネットのニュースはよく見ている。

自尊意識

- 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が72.2%であり、県・全国と比べて高い。
- 「自分にはよいところがあるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が73.3%であり、県・全国と比べて高い。

規範意識

- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答した割合が96.1%であり、県・全国と比べて高い。

総合的な学習の時間

- 「総合的な学習の時間は、普段の生活や社会に出たとき役に立つ」という質問に対して、肯定的な回答の割合は、80.4%であり、県・全国と比べ高い。
- 「総合的な学習の時間において自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」という質問に対して、肯定的な回答の割合が56.2%であり、全国と比べて少ない。

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

(小学校)

●児童の学習に対する意欲をさらに高める

◎学習で得た知識や技能を活用する場面を生み出すための、教科横断的な発想と取組。

●読書への興味・関心をさらに伸ばす

◎司書と連携した授業における学校図書館の活用。

◎並行読書等の推進のための書籍の充実。

●地域や社会への興味・関心を伸ばす

◎地域教材や地域人材の活用だけでなく、学校から地域への貢献を意識した行事の取組。

(中学校)

●児童の学習に対する意欲を高める

◎指導事項にそった基礎・基本の定着を図る。

●読書への興味・関心をさらに伸ばす

◎司書と連携した授業における学校図書館の活用。

◎生徒会活動と連携した読書の推進。

●地域や社会への興味・関心を伸ばす

◎地域教材や地域人材の活用の推進。

●安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上

◎校内での相談体制の再確認と、スクールソーシャルワーカー等の活用を推進。

◎評価の本来の目的を再確認し、指導事項にそった評価を生徒にしっかり返す。

【杵 築 市】

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

★は、全国・県の数値を超えているもの

指導方法・学習規律

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は全国の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「学習規律の維持を徹底したか」	★100 (60.7)

各教科の指導方法

【国語】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか」	★91.0 (78.6)
「書く習慣を付ける授業を行ったか」	★100 (92.8)
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか」	★91.0 (85.8)

【算数】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」	★100 (78.6)

学校図書館の活用

単位%、○は数値上昇

学校質問紙の質問	平成 27 年度	平成 28 年度	比較
「週に 1 回程度、または、それ以上」と回答	21.4	★27.3	○
「月に数回程度」と回答	42.9	36.2	
「学期に数回程度」と回答	28.6	36.4	
「年に数回程度」と回答	7.1	0.0	

中学校：学校質問紙

指導方法・学習規律

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「学習規律の維持を徹底したか」	100 (66.7)

各教科の指導方法

【国語】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったか」	66.6 (66.7)
「書く習慣を付ける授業を行ったか」	66.7 (66.7)
「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか」	100 (100)

【数学】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」	100 (100)

【理科】

数値は平成 28 年度の「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の集計 (%)・() は平成 27 年度の数値
平成 27 年度は抽出調査

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
「自分の予想をもとに観察・実験の計画を立てさせる指導を行ったか」	33.3 (33.3)
「観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったか」	100 (100)

学校図書館の活用

単位%

学校質問紙の質問	平成 27 年度	平成 28 年度
「週に 1 回程度、または、それ以上」と回答	0	0
「月に数回程度」と回答	0	0
「学期に数回程度」と回答	66.7	66.7
「年に数回程度」と回答	33.3	33.3

考察

学校質問紙

- ・学習規律の維持を徹底している。
 - ・発展的な学習を意識しながら授業を行うようになってきた。
 - ・実生活における事象との関連性を考えながら授業を行うようになってきた。
-

- ◆今後もめあて・ねらいの明確化、評価規準の作成と評価、C 評価の児童生徒へのフォローは必須である。
 - ◆児童生徒が振り返る活動が必要であり、その際に総評ではなく、めあて・ねらいにそった具体的な評価を返すことが必要である。
-

学校図書館の活用

- ・学校司書との連携がうまくできていない学校がある。
 - ・各教科の単元との関連を考えた場合、月毎や学期毎の活用に限定されてしまうことが考えられる。
 - ・学校図書館を学校情報センターとしてとらえる意識が薄かったり、学校情報センターとしての機能を発揮するだけの環境が整っていなかったりすることが考えられる。
-
- ◆学校司書との連携がうまくいくように、学校図書館活用計画を作成するなど、担任も学校司書も見通しがもてるよう工夫する。また、学年毎に学校図書館を活用する教科を絞るなどして、調べ学習等で活用する頻度を高める。